

事業名	団体名	エリア	助成額	(内訳) 直接事業費	(内訳) 管理的経費	事業概要	総評
コロナ禍における被災者の心の3密拡大	NPO法人リエラ	大分	9,984,900	9,095,000	889,900	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で更に深刻化した、散在する被災者の孤立や孤独に対して個別訪問を行い、被災者の見える化を行い、一人一人の被災者の生活状況を鑑みて、カウンターパートと共に包括的な生活支援(災害ケースマネジメント)を実施 ・日田市の令和2年7月豪雨に関わる情報を掲載した「災害復興情報しんぶん(仮)」を定期的を作成。コロナ禍の困り事の把握のためのアンケートを実施し、具体的な支援策を検討 ・日田市の取り組みを、大分県内の被災地行政と意見交換を行い、県域で同様の課題に対して検討 ・コロナ禍で深刻さが増した被災者の心と生活再建に関して包括的な支援を行い、発災から2年後の真の生活再建に向けたフォローを行う 	地域連携できており、実現可能性が高く、他の団体の見本となりえる
災害時のペット関連を主とした支援活動	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会	佐賀	10,000,000	8,000,000	2,000,000	<p>これまで犬と共に活動してきた実績を活かし、災害時に災害弱者となり得るペット飼育世帯救済の仕組みを構築する。佐賀県内拠点は、ペット同行避難が可能な避難所およびペットの一時預かり場所として機能させる為に、避難所運営マニュアル作成や、コロナ禍におけるペット同行避難訓練を実施し飼い主の意識改革を図る場とする。またコロナにより他県からの支援が制限される県外の災害でも、直接現地へ赴くことなく連携団体を通じて必要な場所に必要な物を迅速に支援できるように平時からのネットワーク構築を目指す。これと並行して、ペットだけでなく幅広く行政やNPO等と協働し、様々な理由により避難所での生活が困難な方を多角的に支援する。</p>	実現可能性及びニーズが高い。ペット同伴で避難できる形を作り、マニュアル化できれば九州に波及可能。
おおいた・いとでんわプロジェクト	特定非営利活動法人 地域ひとネット	大分	10,000,000	8,886,688	1,113,312	<p>WEBサイト(システム)を構築し災害時の避難場所選択の情報提供と、当事者ニーズを吸上げ支援団体に迅速に伝達することを目的として3つの柱6つの事業を実施する。【ホテル調査】1一時避難施設として133軒に事前アンケート実施約60ヶ所のホテル現地調査 2要配慮者のニーズの吸上げ(事前登録可・災害時入力可)【システム開発】3バリアフリーホテル情報発信(平常時/災害時)4ニーズ伝達のためのデータベース化及びシステムの構築 【結び手】5各エリアの物資購入協力商店の登録と支援窓口となる結び手の発掘、登録6オンライン災害訓練※ニーズはデータ化して大分県社会福祉協議会から各災害ボランティアセンターへ送る</p>	自立支援センターと連携しているので障がい者の登録が可能。被災者のニーズをシステムで管理するので実効性高い。
障がい者就労支援整備事業	NPO法人KP5000	熊本	9,200,000	8,020,000	1,180,000	<ul style="list-style-type: none"> ・当団体もつ情報発信ツール「プラグ」を再整備し、障がい者の就労に関する情報を充実させる。そのために、各事業所の情報更新を進める。 ・障がい者就労の中核となる就労継続支援事業所が抱える課題を研究会実施により解決する。(①経営、仕事づくり、人材育成・採用等に関する講座 ②事業者間の情報共有 ③先進事例視察等) ・学校と協力し、障がいのある(疑いのある)学生に対する就職支援体制を整備し就職を希望する障がい者の継続的な就職率向上を目指す ・障がい者雇用を検討する企業と(重度障がい者と)のマッチングイベント開催する 	コロナ禍においては必須で、実効性も高い
南海トラフ大地震災害支援シミュレーション	特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校	宮崎	6,114,268	5,506,700	607,568	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本豪雨災害ではコロナ禍の影響で近隣の安全地域だが他県のため動けなかった。南海トラフ大地震災害が想定されている宮崎県の太平洋沿岸と、山側の安全地域、熊本、鹿児島、大分などとのネットワーク構築と、緊急連絡リストの作成・共有。 ・コロナ禍での災害支援の具体的な手法について、災害支援コーディネーター経験者、宮崎県内のキーマンが連携し、ZOOM会議を重ね、災害支援マニュアルを作成する。会議は録画し、編集後YOTUBEにアップし、視聴者の意見を抽出し参考にする。 ・熊本豪雨災害で被災した、球磨村の「さんがうら田舎の体験交流館」、八代市坂本町の「リボン」と連携し、同地域の復興支援を行う。 	デジタル化でノウハウを培い、マニュアル化することで次の震災に生かす。今までの実績からも実現性高い
コロナ禍の災害時連携構築と被災地支援事業	特定非営利活動法人 MAKE HAPPY	熊本	9,500,000	7,600,000	1,900,000	<ul style="list-style-type: none"> ・5団体、約10名の活動にかかる資金の補助ができ、1年後も九州圏内で支援活動が継続できている。 ・当団体と5団体の活動で、被災者の生活再建に向けてのニーズを月に10件程度の対応を目標に活動し、1年間で約1000名の被災者に支援を届けることができている。 ・団体間の枠や地域を越えて、連携がその後も続き非常時に備え、いつでもすぐに動ける体制が整っている状態。 	即時実行が可能、今までの実績からも高評価

事業名	団体名	エリア	助成額	(内訳) 直接事業費	(内訳) 管理的経費	事業概要	総評
(仮称) 人吉マンガ図書館を作り復興支援	特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト	熊本	10,000,000	8,530,000	1,470,000	令和2年7月豪雨被害にあった人吉市への復興として、人吉市まち・ひと・くらし総合交流館へマンガ図書館を設立し、中心市街地の復旧・復興と併せ街並み再生と賑わい創出に貢献したいと思えます。マンガ10万冊の内5000冊の整理整頓・リスト化、正本・複本化についてはコロナ雇止め等雇用が不安定な障がい者の方へ雇用を提供し、人吉市への発送の後、寄託できる本については九州一円の希望した施設(南阿蘇村 地獄温泉青風荘・大牟田市 大牟田マンガ図書館・南関市セキアマンガ図書館・唐津市少女まんが館Saga)へ寄託の発送を行い、新型コロナウイルス感染拡大の為遠方へ外出できない方々へ娯楽を提供したいと存じます。	活動10年の実績と漫画というコンテンツ、障がい者の仕事づくり
食による地域づくり支援ネットワーク構築事業	熊本県南部豪雨ひまわり亭災害支援ネットワーク	熊本	10,000,000	10,000,000	0	熊本地震から今回の豪災害で大き役割を担ったキッチンカーは当団体の代表が所属する人吉ロータリークラブが所有するものであり、キッチンカー自体も被災に遭い、老朽化も進み修理等を行いながらの活動であった。また災害時のボランティア活動のみという制約もあり、今後、当団体が目指す地域社会の抱える課題解決に活用できる柔軟性がなく、持続可能な地域づくりを実践するためには、新たな多様性とアフターコロナ禍において、食をコンテンツとした地域振興にも寄与するためには、新しいキッチンカーの必要性がある。平常時の仮設住宅での炊き出し等で被災地のコミュニティの活性化を図り、発災時は避難者への炊き出しを行うものである。	アイデア自体は新規性はないが、平常時の活用に継続性が見いだせる
コロナ禍の災害被災者支援事業	海野建設株式会社	宮崎	10,000,000	9,118,000	882,000	本事業は、災害時に素早くボランティアの力があれば、従来の応急仮設住宅と同様に短期間で価格も約半分まで済み、居住空間も快適なスクエアパネル避難住宅が設営できる。資材機材を備蓄保管し、すでに弊社が協定を結んでいる宮崎県、日向市以外の県内自治体と防災協定を結ぶことを目標として掲げ、スクエアパネルを使った災害時家具のワークショップ、避難所支援を目的とした防災訓練などの実施を通して災害に備え、被災者支援に当たります。事業終了後もスクエアパネル工法を使ったコロナ禍の災害被災者支援のマニュアル教本などの事業期間内に作成し宮崎県内全域、布いては、九州内に活動の輪が広がるようにシステムの構築を目的としています。	建設業のノウハウをプランに生かしている。地元自治体との協業により実現可能性も高い
クマモトリバース(コロナ禍でのハイパーリンク型災害復興支援)	一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO	熊本	10,000,000	7,947,800	2,052,200	1) 熊本豪雨で活動した民間ボランティアや社協の取組みなどを取材し、動画や記事にし、冊子とwebサイトへに纏め誰でも知ることができる環境を構築する。 これまでの活動から業種を問わず様々な企業や団体との繋がりを活かしたハイパーリンク型の災害復興支援を構築する。 2) コロナの状況次第で以下を順次行う。 ・球磨川での川遊びなどのアクティビティとセットにしたボランティアツアーを企画し、現地にお金が落ちる仕組みを構築する。 ・企業の研修活動としてボランティア活動に取り組めるよう構築する。 企画力や実行力、チームマネジメント、現場の判断力、課題解決力などをボランティアを通して学び考える場を提供する。	ボランティア減少への対策は即時性・実効性が高い
災害時に誰もが安心できる環境づくり	一般社団法人あゆみ	九州	11,898,000	11,274,000	624,000	○熊本市内の拠点となる重度心身障害児さんの通所施設を受け入れ拠点とし、自家発電システム(走行充電・太陽光発電⇒リチウム蓄電池)の備わったキッチンカーを配置し、終日配電ができる仕組みを作る。 ○被災地で、多様な形で、炊き出しのできるキッチンカーを造作する。 ○シンポジウム等の開催 各種専門家を交え災害時に備えた講演会の実施、啓発活動や企業等との意見交換を開催する。 ○社会的弱者といわれる方たちへの理解を促すため、地域での炊き出しと共に勉強会の開催をおこなう。 ○通信設備を整えzoomやYouTubeなどでの防災やコロナ対策などの知識についての配信を行う。	工夫が効いている。コロナ禍における弱者を対象にしている
住まいの再建及び生活再建における相談支援事業	特定非営利活動法人YNF	福岡	10,000,000	9,700,000	300,000	①平成29年7月九州北部豪雨にて被害を受けた福岡県朝倉市の災害公営住宅の入居者に対して個別相談支援やコミュニティ支援を行い被災世帯の継続的な安心して暮らせる環境づくりを行う。②令和2年7月豪雨にて被災した大牟田市及び熊本県人吉市の被災世帯に対して個別相談支援や作業支援等を行うほか、連携団体に向けて講習会等のバックアップまたは被災者向けに相談支援制度を解説した動画を作成し公開することで被災世帯の住まいの再建を進めていく。	在宅被災世帯に絞って、顕在化したニーズに対処している

事業名	団体名	エリア	助成額	(内訳) 直接事業費	(内訳) 管理的経費	事業概要	総評
熊本豪雨災害支援オンライン副業復興事業	一般社団法人フミダス	熊本	9,884,260	9,218,760	665,500	熊本豪雨災害において最も被害が大きかった熊本県人吉市においては、新型コロナウイルスの感染を抑制しながら復興を進めていくにおいて、県外人材の力は大きな支えとなるが、現状では頼ることが中々難しい状況にある。このような中、県外人材がオンラインでも復興支援が可能なプロジェクトを人吉市の方々と設計し、マッチング、伴走を行い復興を進めるとともに、全国民が新型コロナウイルスの被災者であることも念頭に、支援側も副業で活動できる取り組みを進める。この取り組みにより人吉市の復興を加速させるとともに、オンライン副業での復興支援の在り方を調査分析し、今後の被災地での復興活動に活かすための新しいケースをつくる。	オンライン副業は時代にマッチしている。具体性が今後持てるかはあるが斬新かつ必要
フクオカアースエイド（学生中心のボランティア活動の企画／運営）	一般社団法人アースプロジェクト福岡	福岡	9,450,000	9,450,000	0	①ボランティア活動の企画／運営・・学生を主に募集し被災地派遣支援や災害を未然に防ぐ清掃活動等を実施。尚、学生の経済状況を鑑み、交通費支給の有償ボランティアを軸に事業を進める。 活動は、既にコロナ禍で遅延している災害地域で実施 ②イベントの開催・・有識者を招いての勉強会やワークショップで、災害の実情や災害を事前に防ぐことの大切さを学ぶ ③企業への展開・・既に賛同している企業の継続と新規開拓を図る(企業と学生との協力がポイント) ④各種団体への協力・・災害復興を実行している団体に賛同。また、本助成事業に認定を受けた「熊本マンガミュージアムプロジェクト」やその他認定団体へボランティア学生の派遣	災害ボランティアの派遣にかかるノウハウは必須であるとともに、現地の状況を踏まえたマネジメントが必要になります。 コロナの影響もある中で、適切な対応を行って頂きますようお願い致します。